



## 2020年12月期 決算短信〔IFRS〕(連結)

2021年2月5日

上場会社名 AGC株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 5201 URL <https://www.agc.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役・社長執行役員 (氏名) 平井 良典  
 問合せ先責任者 (役職名) 広報・IR部長 (氏名) 玉城 和美 (TEL) 03-3218-5603  
 定時株主総会開催予定日 2021年3月30日 配当支払開始予定日 2021年3月31日  
 有価証券報告書提出予定日 2021年3月30日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年12月期の連結業績 (2020年1月1日~2020年12月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		税引前利益		当期純利益		親会社の所有者に 帰属する当期純利益		当期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期	1,412,306	△7.0	75,780	△25.4	57,121	△25.0	41,164	△25.9	32,715	△26.4	△3,314	-
2019年12月期	1,518,039	△0.3	101,624	△15.7	76,213	△40.6	55,515	△45.6	44,434	△50.4	60,495	279.9

	基本的1株当たり 当期純利益	希薄化後 1株当たり当期純利益	親会社所有者帰属持分 当期純利益率	資産合計 税引前利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2020年12月期	147.84	147.24	2.9	2.3	5.4
2019年12月期	200.85	199.95	3.9	3.3	6.7

(参考) 持分法による投資損益 2020年12月期 584百万円 2019年12月期 1,088百万円

#### (2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率	1株当たり親会社 所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期	2,534,458	1,243,039	1,115,142	44.0	5,038.52
2019年12月期	2,335,415	1,282,636	1,157,097	49.5	5,229.58

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年12月期	225,392	△230,248	128,443	236,124
2019年12月期	191,906	△182,636	△17,284	113,784

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	親会社所有者帰属 持分配当率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2019年12月期	-	60.00	-	60.00	120.00	26,587	59.7	2.3
2020年12月期	-	60.00	-	60.00	120.00	26,594	81.2	2.3
2021年12月期(予想)	-	60.00	-	60.00	120.00		47.4	

### 3. 2021年12月期の連結業績予想 (2021年1月1日~2021年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		税引前利益		当期純利益		親会社の所有者に 帰属する当期純利益		基本的1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	750,000	14.6	45,000	118.7	-	-	-	-	-	-	-
通期	1,530,000	8.3	100,000	32.0	87,000	52.3	65,000	57.9	56,000	71.2	253.02

(注) 当社は、第2四半期(累計)については、売上高・営業利益の予想のみを算出しております。

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）  
新規 一社（社名）一、除外 一社（社名）一 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

I F R Sにより要求される会計方針の変更 : 有

①以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

(注) 詳細は13ページ「3. 連結財務諸表及び主な注記 (6) 連結財務諸表注記 2) 会計方針の変更」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

期末発行済株式数(自己株式を含む)

期末自己株式数

期中平均株式数

2020年12月期	227,441,381株	2019年12月期	227,441,381株
2020年12月期	5,813,165株	2019年12月期	5,870,670株
2020年12月期	221,297,751株	2019年12月期	221,232,494株

(参考) 個別業績の概要

1. 2020年12月期の個別業績（2020年1月1日～2020年12月31日）

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期	505,041	△2.3	△120	-	41,345	△75.6	△39,748	-
2019年12月期	516,708	△4.7	5,920	△52.8	169,132	212.7	178,475	243.4

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期	△179.61	-
2019年12月期	806.73	803.15

(注) 当事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、1株当たり当期純損失であるため記載していません。

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期	1,452,293	681,320	46.8	3,068.94
2019年12月期	1,371,747	752,067	54.7	3,388.75

(参考) 自己資本 2020年12月期 679,227百万円 2019年12月期 749,795百万円

<個別業績の前年度実績値との差異理由>

当社は、当期において、当社の連結子会社であるAGC Glass Europe S.A.（本社：ベルギー、主な事業：建築用ガラス・自動車用ガラスの製造・販売）の株式について、同社の業績悪化などに伴い株式の実質価額が著しく低下したため、関係会社株式評価損736億円を特別損失に計上いたしました。また、関係会社からの受取配当金が前期に比べ減少したことなどにより、当社の2020年12月期通期個別業績において、経常利益及び当期純利益は前期実績を下回る結果となりました。

※ 決算短信は監査法人の監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績とは異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、5ページをご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

当社は、補足説明資料（「2020年12月期通期決算説明会資料」）を作成しており、T D n e tで本日開示するとともに、当社ウェブサイトに掲載しています。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 経営成績に関する分析 .....	2
(2) 財政状態に関する分析 .....	3
(3) 次期の見通し .....	5
(4) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当 .....	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	6
3. 連結財務諸表及び主な注記 (IFRS) .....	7
(1) 連結財政状態計算書 .....	7
(2) 連結純損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	8
(3) 連結持分変動計算書 .....	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	12
(5) 継続企業の前提に関する注記 .....	13
(6) 連結財務諸表注記 .....	13

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 経営成績等の概況

#### (1) 経営成績に関する分析

##### 【当期の経営成績】

当期（2020年1月1日から2020年12月31日まで）における当社グループを取り巻く世界経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けました。中国では、2月頃から景気が減速したものの、4月以降持ち直しています。欧州、米国、日本などでは、3月から景気が急速に悪化しましたが、5月頃から進められた段階的な経済活動の再開に伴い、7月以降持ち直しの動きとなりました。しかしながら、感染再拡大による影響を受け、12月頃から欧州において再び弱い動きとなっています。

当社グループは、2016年に長期経営戦略「2025年のありたい姿」を策定しました。この戦略では、長期安定的な収益基盤となる「コア事業」とグループ全体の成長を牽引する「戦略事業」の2つの事業軸で、「高収益のグローバルな優良素材メーカー」となることを目指しています。2018年からの3カ年は、「2025年のありたい姿」実現のための礎を築く期間と位置づけ、中期経営計画**AGC plus-2020**に取り組みました。

最終年度である当期においては、自動車用ガラスや建築用ガラス、輸送機器向けフッ素関連製品などにおいて新型コロナウイルス感染拡大による需要減少の影響を受けました。一方、電子部材および液晶用ガラス基板、ライフサイエンス製品は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けず、出荷が増加しました。また、東南アジアにおける苛性ソーダ、および液晶用ガラス基板や建築用ガラスの価格が下落しました。

このような事業環境の下、戦略事業領域のうちエレクトロニクス事業で、EUV露光用フォトマスクブランクス等の供給体制の大幅増強を決定しました。また、ライフサイエンス事業では国内外の生産能力増強に加え、米国バイオ医薬品原薬製造工場や遺伝子・細胞治療CDMOを手掛けるMolecular Medicine S.p.A.（現AGC Biologics S.p.A.）の買収など、積極的に事業拡大を進めました。コア事業ではガラス事業において欧州のガラス窯閉鎖や人員削減など固定費削減の取組みを開始し、収益改善に努めています。

以上の結果、当期の売上高は、前期比1,057億円（7.0%）減の14,123億円、営業利益は、同258億円（25.4%）減の758億円となりました。税引前利益は、同191億円（25.0%）減の571億円、親会社の所有者に帰属する当期純利益は、同117億円（26.4%）減の327億円となりました。

##### 【報告セグメント別の概況】

（億円：千万単位四捨五入）

	売上高		営業利益	
	当期	前期	当期	前期
ガラス	6,510	7,429	△166	93
電子	2,894	2,767	378	256
化学品	4,512	4,758	505	630
セラミックス・その他	811	832	42	39
消去又は全社	△603	△606	△1	△0
合計	14,123	15,180	758	1,016

#### ○ガラス

建築用ガラスは、南米など一部を除く地域で、新型コロナウイルス感染拡大の影響により需要が減少しました。また、日本および南米を除く地域における販売価格下落の影響も加わり、前期に比べ減収となりました。自動車用ガラスは、新型コロナウイルス感染拡大および景況感悪化による世界的な自動車生産台数減少の影響を受け、当社グループの出荷は減少し、前期に比べ減収となりました。

以上の結果から、当期のガラスの売上高は、前期比920億円（12.4%）減の6,510億円となりました。営業利益は、前述の減収要因、および製造設備の大幅な稼働調整による製造原価悪化により、同258億円減の166億円の損失となりました。

#### ○電子

ディスプレイのうち、ディスプレイ用特殊ガラスは新型コロナウイルス感染拡大の影響により、スマートフォンの販売台数が減少したことから出荷が減少しました。一方、液晶用ガラス基板は販売価格が下落したものの、出荷が増加したことから、ディスプレイの売上高は前期に比べ増収となりました。電子部材は、オプトエレクトロニクス用部材およびEUV露光用フォトマスクブランクス等の半導体関連製品の出荷がともに増加しました。また、2019年6月に買収した

Taconic社のプリント基板材料事業等の売上高が寄与したこともあり、電子部材の売上高は前期に比べ増収となりました。

以上の結果から、当期の電子の売上高は、前期比127億円（4.6%）増の2,894億円となり、営業利益は、同122億円（47.8%）増の378億円となりました。

### ○化学品

クロールアルカリ・ウレタンは、新型コロナウイルス感染拡大の影響による出荷減少、東南アジアでの苛性ソーダの販売価格下落などにより、前期に比べ減収となりました。フッ素・スペシャリティは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により航空機などの輸送機器向けフッ素関連製品の出荷が減少したため、前期に比べ減収となりました。ライフサイエンスは、合成医薬品、バイオ医薬品ともに受託件数が増加したことにより、前期に比べ増収となりました。

以上の結果から、当期の化学品の売上高は、前期比246億円（5.2%）減の4,512億円となり、営業利益は同125億円（19.8%）減の505億円となりました。

各報告セグメントに属する主要な製品の種類は以下のとおりです。

報告セグメント	主要製品
ガラス	フロート板ガラス、型板ガラス、網入り磨板ガラス、Low-E（低放射）ガラス、装飾ガラス、建築用加工ガラス（断熱・遮熱複層ガラス、防災・防犯ガラス、防・耐火ガラス等）、自動車用ガラス、車載ディスプレイ用カバーガラス等
電子	液晶用ガラス基板、有機EL用ガラス基板、ディスプレイ用特殊ガラス、ディスプレイ用周辺部材、ソーラー用ガラス、産業用加工ガラス、半導体プロセス用部材、オプトエレクトロニクス用部材、プリント基板材料、照明用製品、理化学用製品等
化学品	塩化ビニル、塩化ビニル原料、苛性ソーダ、ウレタン原料、フッ素樹脂、撥水撥油剤、ガス、溶剤、医薬品中間体・原体、ヨウ素製品等

上記製品の他、当社グループは、セラミックス製品、物流・金融サービス等も扱っています。

### (2) 財政状態に関する分析

#### 【当期の連結財政状態の概況】

(億円：千万単位四捨五入)

	当期	前期	増減
資産	25,345	23,354	1,990
負債	12,914	10,528	2,386
資本	12,430	12,826	△396

### ○資産

当期末の資産は、前期末比1,990億円増の25,345億円となりました。これは主に、現金及び現金同等物が増加したことによるものであります。

### ○負債

当期末の負債は、前期末比2,386億円増の12,914億円となりました。これは主に、有利子負債が増加したことによるものであります。

### ○資本

当期末の資本は、前期末比396億円減の12,430億円となりました。これは主に、前期末比で円高になったことにより在外営業活動体の換算差額が減少したことによるものであります。

## 【当期の連結キャッシュ・フローの概況】

(億円：千万単位四捨五入)

	当期	前期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,254	1,919	335
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,302	△1,826	△476
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,284	△173	1,457
現金及び現金同等物期末残高	2,361	1,138	1,223

当期におけるフリー・キャッシュ・フロー（営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローの合計）は、税引前利益やその他の金融資産の売却が減少したことなどにより、49億円の支出（前期は93億円の収入）となりました。一方、財務活動によるキャッシュ・フローにおいて、長期有利子負債の借入による収入等があり、当期末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前期末より1,223億円（107.5%）増加し、2,361億円となりました。

## ○営業活動によるキャッシュ・フロー

当期における営業活動により得られた資金は、前期比335億円（17.4%）増の2,254億円となりました。

## ○投資活動によるキャッシュ・フロー

当期における投資活動により使用された資金は、前期比476億円（26.1%）増の2,302億円となりました。当該支出は、有形固定資産の取得による支出、子会社又はその他の事業の取得による支出等があったことによるものであります。

## ○財務活動によるキャッシュ・フロー

当期における財務活動により得られた資金は、1,284億円（前期は173億円の支出）となりました。当該収入は、長期有利子負債の借入による収入等があったことによるものであります。

## ○キャッシュ・フロー指標

	2019年	2020年
親会社所有者帰属持分比率（%）	49.5	44.0
時価ベースの親会社所有者帰属持分比率（%）	37.2	31.5
債務償還年数（年）	3.1	3.5
インタレスト・カバレッジ・レシオ	14.7	28.9

(注) 親会社所有者帰属持分比率：親会社の所有者に帰属する持分合計／資産合計

時価ベースの親会社所有者帰属持分比率：株式時価総額／資産合計

債務償還年数：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

※ 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。

※ 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。

※ 営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。

※ 有利子負債は、連結財政状態計算書に計上されている負債のうち、利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

## (3) 次期の見通し

## 【次期の業績の見通し】

(億円：千万単位四捨五入)

	売上高	営業利益	税引前利益	当期純利益	親会社の所有者に帰属する当期純利益
次期 (2021年)	15,300	1,000	870	650	560
当期 (2020年)	14,123	758	571	412	327
増減率 (%)	8.3%	32.0%	52.3%	57.9%	71.2%

2021年の世界経済は、持ち直しの動きは続く見込みですが、引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響により厳しい状況にあり、依然として先行きは不透明な状況です。今後も、感染再拡大の景気に与える影響について注視していく必要があります。

このような環境の下、建築用ガラスの需要は多くの地域で緩やかに回復する見込みです。自動車用ガラスは、世界の自動車生産台数が前期と比較し増加することから、出荷は緩やかに回復する見込みです。

ディスプレイのうち、液晶用ガラス基板は中国向けの出荷が増加する見込みです。販売価格は下落幅が縮小する見込みです。ディスプレイ用特殊ガラスは、スマートフォン市場の回復により、出荷が増加する見込みです。電子部材のうち、EUV露光用フォトマスクブランクス等の半導体関連製品およびオプトエレクトロニクス用部材は、半導体関連市場の成長やモバイル端末向け製品の需要増などにより、出荷が増加する見込みです。なお、液晶用ガラス基板や半導体関連製品の新規設備立ち上げ等に伴い、減価償却費が増加する見込みです。

化学品については、クロールアルカリ・ウレタンは、出荷は緩やかに回復する見込みです。フッ素・スペシャリティは、自動車、半導体向けフッ素関連製品の需要回復により、出荷は緩やかに回復する見込みです。ライフサイエンスは、合成医薬品、バイオ医薬品ともに受託件数が増加することに加え、新型コロナウイルス関連医薬品の受託増も見込まれることから、前期に比べ大きく出荷が増加する見込みです。

以上を踏まえて、当社グループの2021年通期の売上高は前期比1,177億円(8.3%)増の15,300億円、営業利益は前期比242億円(32.0%)増の1,000億円、税引前利益は前期比299億円増の870億円、親会社の所有者に帰属する当期純利益は前期比233億円増の560億円を予想しています。2021年通期の期中平均為替レートは、対米ドル105円、対ユーロ125円と想定しています。

## 【次期の財政状態の見通し】

営業活動による資金のうち、税引前利益は前期比299億円増の870億円、減価償却費は前期比163億円増の1,600億円となる見込みです。

投資活動による資金のうち、設備投資は前期比413億円減の2,000億円となる計画です。

財務活動としては、配当政策に基づいた配当支払に加え、有利子負債の返済と借入等を実施する予定です。

## (4) 利益分配に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社グループは、財務健全性を維持しながら、コア事業から創出されたキャッシュを今後の成長に必要な戦略事業等への設備投資、M&A、研究開発等に優先的に活用いたします。

株主の皆様への還元につきましては、当期連結業績や将来の資金需要等を総合的に勘案しながら、連結配当性向40%を目安とした安定的な配当を継続いたします。また、資本効率の向上に資する株主還元策として機動的に自己株取得を行う方針としております。

当期の配当につきましては、当期の業績、経営環境、今後の事業展開等を勘案し、第2四半期末配当(中間配当)は1株当たり60円で実施し、期末配当については1株当たり60円を予定しています。

なお、次期(2021年12月期)につきましては、業績見通しを鑑み、第2四半期末配当(中間配当)は1株当たり60円、期末配当は1株当たり60円とする予定です。

## 《見通しに関する留意事項》

前述の業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社グループの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみで全面的に依存して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、当社グループの事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、為替レートなど様々な要素により、見通しとは異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、財務諸表の国際的な比較可能性の向上や国内外の投資家への利便性の提供を図るとともに、グループ経営の効率化にも資することから、2013年12月期決算から国際会計基準(IFRS)を適用しています。



## 3. 連結財務諸表及び主な注記 ( I F R S )

## (1) 連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2019年12月31日)	当連結会計年度末 (2020年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	113,784	236,124
営業債権	264,102	266,177
棚卸資産	291,224	274,835
その他の債権	46,387	62,468
未収法人所得税	6,849	5,169
その他の流動資産	20,263	16,186
流動資産合計	742,612	860,962
非流動資産		
有形固定資産	1,177,691	1,246,885
のれん	103,946	118,063
無形資産	69,964	72,660
持分法で会計処理されている投資	33,204	32,014
その他の金融資産	138,053	130,919
繰延税金資産	21,297	25,944
その他の非流動資産	48,644	47,008
非流動資産合計	1,592,802	1,673,495
資産合計	2,335,415	2,534,458
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務	152,502	151,874
短期有利子負債	78,439	106,884
1年内返済予定の長期有利子負債	80,101	87,163
その他の債務	140,722	186,310
未払法人所得税	8,867	12,426
引当金	3,968	1,563
その他の流動負債	17,887	17,676
流動負債合計	482,490	563,898
非流動負債		
長期有利子負債	444,301	593,912
繰延税金負債	41,846	35,153
退職給付に係る負債	62,454	64,736
引当金	8,286	12,353
その他の非流動負債	13,399	21,363
非流動負債合計	570,288	727,519
負債合計	1,052,778	1,291,418
資本		
資本金	90,873	90,873
資本剰余金	92,593	83,501
利益剰余金	811,589	818,701
自己株式	△28,468	△28,170
その他の資本の構成要素	190,510	150,236
親会社の所有者に帰属する持分合計	1,157,097	1,115,142
非支配持分	125,538	127,897
資本合計	1,282,636	1,243,039
負債及び資本合計	2,335,415	2,534,458

(2) 連結純損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結純損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
売上高	1,518,039	1,412,306
売上原価	△1,115,323	△1,053,243
売上総利益	402,715	359,062
販売費及び一般管理費	△302,179	△283,867
持分法による投資損益	1,088	584
営業利益	101,624	75,780
その他収益	12,743	6,743
その他費用	△38,365	△22,812
事業利益	76,002	59,711
金融収益	13,906	5,903
金融費用	△13,696	△8,492
金融収益・費用合計	210	△2,589
税引前利益	76,213	57,121
法人所得税費用	△20,698	△15,957
当期純利益	55,515	41,164
親会社の所有者に帰属する当期純利益	44,434	32,715
非支配持分に帰属する当期純利益	11,080	8,448
1株当たり当期純利益		
基本的1株当たり当期純利益 (円)	200.85	147.84
希薄化後1株当たり当期純利益 (円)	199.95	147.24

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
当期純利益	55,515	41,164
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
確定給付負債(資産)の純額の再測定	6,702	△41
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動	5,844	△3,258
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	△799	△2
純損益に振り替えられることのない項目合計	11,748	△3,302
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動	△811	1,173
在外営業活動体の換算差額	△5,956	△42,349
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	△6,767	△41,175
その他の包括利益(税引後)合計	4,980	△44,478
当期包括利益合計	60,495	△3,314
親会社の所有者に帰属する当期包括利益	48,239	△6,426
非支配持分に帰属する当期包括利益	12,256	3,111

## (3) 連結持分変動計算書

前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

(単位: 百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
					確定給付負債(資産)の純額の再測定	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動
期首残高	90,873	94,368	773,760	△28,821	△37,767	70,288
会計方針の変更の影響	—	—	△168	—	—	—
修正再表示後期首残高	90,873	94,368	773,591	△28,821	△37,767	70,288
当期変動額						
当期包括利益						
当期純利益	—	—	44,434	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	6,322	5,816
当期包括利益合計	—	—	44,434	—	6,322	5,816
所有者との取引額等						
配当	—	—	△26,582	—	—	—
自己株式の取得	—	—	—	△15	—	—
自己株式の処分	—	—	△172	368	—	—
支配継続子会社に対する持分変動	—	△286	—	—	—	—
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	20,318	—	—	△20,318
株式報酬取引	—	73	—	—	—	—
その他企業結合等	—	△1,562	—	—	—	—
所有者との取引額等合計	—	△1,775	△6,436	352	—	△20,318
期末残高	90,873	92,593	811,589	△28,468	△31,445	55,786

	親会社の所有者に帰属する持分				非支配持分	資本合計
	その他の資本の構成要素			合計		
	キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動	在外営業活動体の換算差額	合計			
期首残高	103	174,399	207,023	1,137,204	116,399	1,253,604
会計方針の変更の影響	—	—	—	△168	△117	△286
修正再表示後期首残高	103	174,399	207,023	1,137,035	116,281	1,253,317
当期変動額						
当期包括利益						
当期純利益	—	—	—	44,434	11,080	55,515
その他の包括利益	△768	△7,565	3,804	3,804	1,175	4,980
当期包括利益合計	△768	△7,565	3,804	48,239	12,256	60,495
所有者との取引額等						
配当	—	—	—	△26,582	△3,529	△30,112
自己株式の取得	—	—	—	△15	—	△15
自己株式の処分	—	—	—	195	—	195
支配継続子会社に対する持分変動	—	—	—	△286	△480	△766
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	△20,318	—	—	—
株式報酬取引	—	—	—	73	—	73
その他企業結合等	—	—	—	△1,562	1,009	△552
所有者との取引額等合計	—	—	△20,318	△28,177	△2,999	△31,177
期末残高	△665	166,833	190,510	1,157,097	125,538	1,282,636

当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

(単位: 百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
					確定給付負債(資産)の純額の再測定	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動
期首残高	90,873	92,593	811,589	△28,468	△31,445	55,786
当期変動額						
当期包括利益						
当期純利益	—	—	32,715	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	241	△3,257
当期包括利益合計	—	—	32,715	—	241	△3,257
所有者との取引額等						
配当	—	—	△26,591	—	—	—
自己株式の取得	—	—	—	△13	—	—
自己株式の処分	—	—	△143	311	—	—
支配継続子会社に対する持分変動	—	△1,442	—	—	—	—
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	1,131	—	—	△1,131
株式報酬取引	—	△218	—	—	—	—
その他企業結合等	—	△7,431	—	—	—	—
所有者との取引額等合計	—	△9,091	△25,603	297	—	△1,131
期末残高	90,873	83,501	818,701	△28,170	△31,203	51,397

	親会社の所有者に帰属する持分					
	その他の資本の構成要素			合計	非支配持分	資本合計
	キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動	在外営業活動体の換算差額	合計			
期首残高	△665	166,833	190,510	1,157,097	125,538	1,282,636
当期変動額						
当期包括利益						
当期純利益	—	—	—	32,715	8,448	41,164
その他の包括利益	1,104	△37,231	△39,142	△39,142	△5,336	△44,478
当期包括利益合計	1,104	△37,231	△39,142	△6,426	3,111	△3,314
所有者との取引額等						
配当	—	—	—	△26,591	△4,291	△30,883
自己株式の取得	—	—	—	△13	—	△13
自己株式の処分	—	—	—	167	—	167
支配継続子会社に対する持分変動	—	—	—	△1,442	△559	△2,001
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	△1,131	—	—	—
株式報酬取引	—	—	—	△218	—	△218
その他企業結合等	—	—	—	△7,431	4,098	△3,332
所有者との取引額等合計	—	—	△1,131	△35,528	△753	△36,281
期末残高	439	129,602	150,236	1,115,142	127,897	1,243,039

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前利益	76,213	57,121
減価償却費及び償却費	143,361	143,716
減損損失	24,454	1,213
受取利息及び受取配当金	△13,578	△5,702
支払利息	12,281	7,620
持分法による投資損益	△1,088	△584
固定資産除売却損益	2,463	9,378
営業債権の増減額	△2,979	△3,328
棚卸資産の増減額	△9,079	11,691
営業債務の増減額	△4,518	△605
その他	△7,086	24,574
小計	220,444	245,095
利息及び配当金の受取額	13,753	6,244
利息の支払額	△13,073	△7,786
法人所得税の支払額又は還付額	△29,217	△18,160
営業活動によるキャッシュ・フロー	191,906	225,392
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産及び無形資産の取得による支出	△197,928	△191,469
有形固定資産の売却による収入	7,350	4,404
その他の金融資産の取得による支出	△3,790	△33,106
その他の金融資産の売却及び償還による収入	51,302	20,911
子会社又はその他の事業の取得による支出	△40,093	△27,019
その他	523	△3,969
投資活動によるキャッシュ・フロー	△182,636	△230,248
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期有利子負債の増減	12,653	28,896
長期有利子負債の借入及び発行による収入	80,313	228,064
長期有利子負債の返済及び償還による支出	△81,636	△99,167
非支配持分株主からの子会社持分取得による支出	—	△2,001
非支配持分株主からの払込みによる収入	1,500	3,540
自己株式の取得による支出	△15	△13
配当金の支払額	△26,582	△26,591
非支配持分株主への配当金の支払額	△3,529	△4,291
その他	14	6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△17,284	128,443
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,704	△1,246
現金及び現金同等物の増減額	△9,719	122,340
現金及び現金同等物の期首残高	123,503	113,784
現金及び現金同等物の期末残高	113,784	236,124

## (5) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (6) 連結財務諸表注記

## 1) 作成の基礎

当社グループの連結財務諸表は、連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件をすべて満たすことから、連結財務諸表規則第93条の規定により、国際会計基準（IFRS）に準拠して作成しております。

## 2) 会計方針の変更

当社グループの連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下を除いて、前連結会計年度の連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

当社グループは、当連結会計年度より、以下の基準書をそれぞれの経過措置に準拠して適用しております。以下の基準書の適用が、当社グループの連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

基準書	基準名	概要
IFRS第3号 (2018年10月改訂)	企業結合	事業の定義の明確化
IAS第1号 IAS第8号 (2018年10月改訂)	財務諸表の表示 会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬	重要性の定義の明確化

## 3) 重要な会計方針

連結純損益計算書における「営業利益」は、当社グループの業績を継続的に比較・評価することに資する指標であります。「その他収益」及び「その他費用」の主な内訳には、為替差損益、固定資産売却益、固定資産除却損、減損損失、事業構造改善費用などがあります。「事業利益」には、金融収益・費用及び法人所得税費用を除いたすべての収益・費用が含まれております。

## 4) セグメント情報

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高意思決定機関が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品・サービス別に、「ビルディング・産業ガラス」「オートモーティブ」「電子」「化学品」の4カンパニーを置き、各カンパニーは、取扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、グローバルに事業活動を展開しております。

なお、「ビルディング・産業ガラス」及び「オートモーティブ」につきましては、サプライチェーンの最上流に位置し最大の資産であるフロート板ガラス製造設備（ガラス溶解窯）等を、共同で活用しており、両カンパニー共用の資産・負債が併存しております。共用の状況は生産や販売の需給変動で左右されます。これらの状況を考慮し、財務諸表については分離することが困難であるため、「ビルディング・産業ガラス」及び「オートモーティブ」にて「ガラス」セグメントとし、財務諸表を作成しております。また、経営資源の配分の決定がそれぞれの業績に密接に影響を与え、業績評価についても不可分の関係にあることから、全体最適生産、シナジー効果の維持等を目的に、両カンパニープレジデント等参加の下で「ガラスセグメント会議」等を設置し、グループ利益の最大化を協働で図っております。これらの状況を踏まえて、「ビルディング・産業ガラス」及び「オートモーティブ」にて「ガラス」セグメントとして報告しております。

したがって、当社グループは、「ガラス」「電子」「化学品」の3つを報告セグメントとしております。

なお、各報告セグメントに属する主要な製品の種類は、以下のとおりであります。

報告セグメント	主要製品
ガラス	フロート板ガラス、型板ガラス、網入り磨板ガラス、Low-E（低放射）ガラス、装飾ガラス、建築用加工ガラス（断熱・遮熱複層ガラス、防災・防犯ガラス、防・耐火ガラス等）、自動車用ガラス、車載ディスプレイ用カバーガラス等
電子	液晶用ガラス基板、有機EL用ガラス基板、ディスプレイ用特殊ガラス、ディスプレイ用周辺部材、ソーラー用ガラス、産業用加工ガラス、半導体プロセス用部材、オプトエレクトロニクス用部材、プリント基板材料、照明用製品、理化学用製品等
化学品	塩化ビニル、塩化ビニル原料、苛性ソーダ、ウレタン原料、フッ素樹脂、撥水撥油剤、ガス、溶剤、医農薬中間体・原体、ヨウ素製品等



前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント			セラミックス・その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	ガラス	電子	化学品				
外部顧客への売上高	740,920	265,215	474,417	37,485	1,518,039	—	1,518,039
セグメント間の売上高	2,013	11,463	1,360	45,756	60,594	△60,594	—
計	742,934	276,678	475,778	83,241	1,578,633	△60,594	1,518,039
セグメント利益又は損失 (営業利益)	9,266	25,581	62,961	3,850	101,659	△34	101,624
当期純利益	—	—	—	—	—	—	55,515
その他の項目							
減価償却費及び償却費	52,500	47,265	39,355	4,334	143,456	△94	143,361
資本的支出	80,394	55,841	69,011	2,487	207,736	△75	207,661
持分法適用会社への投資額	26,284	1,194	2,702	3,024	33,204	—	33,204

セグメント間の取引の価格は、主に市場価格や製造原価に基づいております。

「セラミックス・その他」では、セラミックス製品、物流・金融サービス等を扱っております。

当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント			セラミックス・その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	ガラス	電子	化学品				
外部顧客への売上高	648,394	283,025	449,739	31,145	1,412,306	—	1,412,306
セグメント間の売上高	2,570	6,327	1,416	49,976	60,291	△60,291	—
計	650,965	289,353	451,156	81,122	1,472,597	△60,291	1,412,306
セグメント利益又は損失 (営業利益)	△16,579	37,797	50,477	4,226	75,922	△142	75,780
当期純利益	—	—	—	—	—	—	41,164
その他の項目							
減価償却費及び償却費	50,968	47,896	43,004	1,927	143,796	△79	143,716
資本的支出	64,141	80,686	95,216	1,536	241,581	△232	241,348
持分法適用会社への投資額	25,032	1,338	2,428	3,215	32,014	—	32,014

セグメント間の取引の価格は、主に市場価格や製造原価に基づいております。

「セラミックス・その他」では、セラミックス製品、物流・金融サービス等を扱っております。

## 5) 連結純損益計算書関係

## ① その他収益の内容

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
為替差益	5,983	3,608
固定資産売却益	2,241	516
事業構造改善引当金戻入益	805	589
その他	3,713	2,028
その他収益合計	12,743	6,743

## ② その他費用の内容

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
固定資産除却損	△4,705	△9,894
減損損失	△24,454	△1,213
事業構造改善費用	△6,492	△7,951
その他	△2,713	△3,752
その他費用合計	△38,365	△22,812

## 6) 1株当たり情報

## ① 基本的1株当たり当期純利益

基本的1株当たり当期純利益及びその算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
親会社の所有者に帰属する当期純利益 (百万円)	44,434	32,715
普通株式の加重平均株式数 (千株)	221,232	221,297
基本的1株当たり当期純利益 (円)	200.85	147.84

## ② 希薄化後1株当たり当期純利益

希薄化後1株当たり当期純利益及びその算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
親会社の所有者に帰属する当期純利益 (百万円)	44,434	32,715
希薄化後1株当たり当期純利益の計算に使用する利益への調整額 (百万円)	—	—
希薄化後1株当たり当期純利益の計算に使用する利益 (百万円)	44,434	32,715

普通株式の加重平均株式数 (千株)	221,232	221,297
希薄化効果を有する潜在的普通株式の影響		
新株予約権方式によるストック・オプション (千株)	994	895
希薄化後の普通株式の加重平均株式数 (千株)	222,226	222,193

希薄化後1株当たり当期純利益 (円)	199.95	147.24
--------------------	--------	--------

## 7) 重要な後発事象

該当事項はありません。